
令和4年7月5日 令和4年度第2回健幸都市づくり推進本部会議

開催日時	令和4年7月5日(火) 午後3時30分から午後4時20分まで
開催場所	全員協議会室
出席者	市長、山本副市長、辻川副市長、総合政策部長、総合政策部理事(経営戦略・デジタル戦略担当)、危機管理監、総務部長兼法令遵守監、まちづくり協働部長、環境経済部長、健康福祉部長、健康福祉部理事(健幸都市づくり・地域共生社会推進担当)、子ども未来部長、都市計画部長、技監、建設部長、建設部理事(プール整備・草津川跡地整備担当)、上下水道部長、教育部長、教育部理事(学校教育担当)、議会事務局長
欠席者	教育長、建設部理事(住宅担当)
議事概要	下記のとおり

審議案件

(1) 草津市健幸都市づくりガイドブック素案について

【事務局から説明】

【質疑・意見】

- ・冊子の全体構成(内容の順番等)が一般的な計画等と異なっている。斬新ではあると思うが、内容的にも唐突な感じがするので、冊子の最初の部分のどこかに、このことの趣旨について記述することは考えているか。
⇒冒頭の導入部分「はじめに」の中などで、趣旨を記述する予定である。
- ・P28において、基本方針の策定にあたって、第6次総計との関連が書かれてあるが、それならば期間は令和5年度からではなく、総計の構想期間である令和3年度からとするべきではないのか。
⇒ご指摘の点を踏まえ、令和3、4年度も含めた形に修正する。
- ・P31の基本理念の内容は、総計の将来ビジョンに合わせるのか、それとも独自に定めるのか。また、それをP18のイメージ図にも反映させるべきである。
⇒基本的には現行の健幸都市基本計画の基本理念である「目指せ、健幸都市くさつ！」をそのまま踏襲することを考えているが、それに代わるものがあるかどうかを含めて今後検討する。P18のイメージ図には反映するようにする。
- ・P32の体系図における各項目について、P20以降の対応するページを表記してはどうか。
⇒多くの情報を記述すると見にくくなる面もあることから、全体のバランスを考慮しながら検討する。
- ・進捗管理の方法についての考え方を教えてほしい。また、P28の方針の中で、進捗管理のことについても記述してはどうか。(その際はP12の内容とも整合を図る必要がある。)
⇒予定している2つの目標指標については当課にて管理していくが、個別の施策・事業に関しては、総計等の中で管理していく考えである。企画調整課とも調整の上、整理する。
- ・健康寿命の現状値はどうなっているのか。また、幸福度を指標にするとのことであるが、アンケート等で確認していくことになると思うがうまく機能するのか。
⇒直近の数値はまだ確定していないが、令和元年においては、男性:81.69歳、女性85.52歳となっている。また、幸福度については、単に個々の幸福度の程度を点数で尋ねるだけではなく、その決定要因やそれを高めるために必要な施策等を併せて確認することで、複合的な視点で把握するように考えている。

- ・前は健康寿命と平均寿命の差に着眼する説明があったように記憶しているが、どういった経過で今回、指標を健康寿命と幸福度にしたのか。
- ⇒推進委員会において、学識経験者等から、健康寿命と平均寿命の差とすると、介護予防の側面が強くなるとの指摘をいただいたことから「健康寿命の延伸」を設定した。また、健幸の「幸せ」の視点を評価するため、新たに「幸福度」の指標を設定したものである。
- ・幸福度に関するアンケート調査を実施する場合は、恣意的な運用とならないよう留意されたい。
- ・以前、草津未来研究所において幸福度に関する調査研究を実施しており、幸福度の視点を総計の成果指標に取り入れることを断念した経緯があるので一度確認されたい。また、先進地である荒川区などでは、総合的な幸福度指標を構成する要因の1つとして健康寿命を位置付けていることもあるので、よく検討して整理されたい。
- ⇒幸福度に関しては、複数の先行自治体の取組事例があるので、調査を進めて検討していく。
- ・P20 以降において、「あなたへのメッセージ」として記載があるが、一部でエビデンスに欠けるような内容のものも含まれている。行政が発信する情報としてよく精査されたい。
- ⇒多くの方が目にするものなので、記載内容については精査する。
- ・SWC(スマート・ウェルネス・シティ)の研究会が提唱する幸福の3要素(食事、運動、社会参加)は取り入れて策定しているのか。
- ⇒栄養や運動に関してはパッケージ 1 中の「全世代共通の健幸づくり」においてその内容を取り入れており、社会参加についても、直接的ではないが、パッケージ 2 中の「地域共生社会」や「人権が尊重される社会の推進」等において言及している。
- ・その流れで言うと、P32 の体系図の並びに、「世代ごとの健幸づくり」があることに違和感がある。また、事業評価を行う際にも、ここの内容は他の項目と重複することも多いと考えられ、煩雑になる懸念がある。
- ⇒体系としては、パッケージ 1 で従来の「ひとの健幸」を、パッケージ 2 で従来の「まちの健幸」を記載している。ここでは、人の健幸づくりに関して、「世代ごとの健幸づくり」において、世代毎に異なるそれぞれの取組を示すことで、各々が我が事として意識しやすくなるのではないかという意図がある。構成については、現時点で変更することは考えていないが、評価の面で関連事業としては重複するものは出てこようかと思われるので、その際は少し整理が必要であると考えている。
- ・最終的なインパクト(目標)を達成するためのアウトカムとして健康寿命と幸福度の指標を設定していると思うが、本来は分野毎の中間アウトカムとして複数の指標があった方がいいように思う。
- ・P32 の「目指せ、健幸都市くさつ！」は最終的な目標として決定したものか。
- ⇒目標ではなく、現行計画の基本理念を記述しており、現時点ではこの理念を踏襲しようと考えている。
- ・ガイドブックとなっているが、例えば、コンセプトブックやイメージブックといった名称にしてはどうか。また、冊子の作成にあたっては、レイアウトや写真の活用等、コミュニティ事業団が発行している誌面等も参考にされたい。
- ・基本計画を基本方針に変更した経緯は。計画との違いは何か。
- ⇒個別の施策・事業については、総計の将来ビジョンに健幸創造都市が謳われ、関連する施策・事業は総計や他の計画の下で実行・管理していくという考えである。本件は、総計の補完的な位置付けとして、健幸都市づくりに関する普遍的な理念や基本的な方向性を示すとともに、市民向けに情報発信を行うことに主眼を置いているという趣旨から、計画ではなく方針としている。
- ・パッケージに記載している取組の内容は、総計の各施策の取組と比べても細かく記載してある。今後は、次期基本計画の策定時など、総計側がこの方針の内容に寄せる必要があるということか。
- ⇒特にそのようなことは必要ない(今回の方針は現計画の内容に沿ったものである)と考えている。市民

に知って理解してもらうためには、具体的に記述した方が分かりやすいことから、(総計よりも)少し詳しく触れている。

・今後の策定スケジュールは。

⇒いただいた指摘等を踏まえて修正し、秋頃を目途に中間協議(報告)を予定している。それまでに本部会議等で随時お示しし、諮らせていただきながら進めていく予定である。

【本部長からの指示事項】

・こうした場での協議を経ることで当ガイドブックの磨き上げがなされるものであるので、その他意見がある場合は、7月中旬までに事務局まで寄せられたい。

以上

このページのお問い合わせ

概要作成担当	草津市 健康福祉部 健康福祉政策課 健康福祉政策係
電話	077-561-2360
ファクス	077-561-2482
メール	kenkofukushi@city.kusatsu.lg.jp